

柳瀬尚紀訳『フィネガンズ・ウェイクⅠ～Ⅳ』の アイヌ語地名について

齋 藤 一

声は、たとえば“ほらほら、日暮里にっぽりになってきたじゃない！”(Look, look, the dusk is growing!) ジョイスの声は、薄墨色に片手の隅の柔かな掌の窪みから、ほらほら(Look, look)立ち昇る。(欲ぶがいいい、中也も中也の“骨”も“灰”も“夕暮”も。)沈黙も余白もあるものか。静内しずないは音更おとぶけは(わたしは女)、川湯が湯川がが飛び弾ねる、ニソニソ・シツシツ・チューチュー、言葉の虹だ。火夫が海底をそぞろ歩く。骨、帆柱。そして雪がふって来た。根室、ダブリンに。

(吉増剛増による惹句、柳瀬尚紀訳『フィネガンズ・ウェイクⅢ・Ⅳ』〔1993年〕オビより)

I はじめに

1991年に柳瀬尚紀がJames Joyce, *Finnegans Wake* (1939)の翻訳(前半)を『フィネガンズ・ウェイクⅠ・Ⅱ』(河出書房新社)として出版したときにはずいぶんと話題になったことを覚えている。当時院生だった私もすぐさま購入した。しかし、おそらく多くの読者と同様に、読み始めて最初の数頁で挫折した。結局、この翻訳を通読したのは2005年のことであった。15年間、積ん読していたのである。

柳瀬訳『フィネガンズ・ウェイク』を通読したのは偶然である。2005年の春、北海道の帯広畜産大学に勤めていた私は、筑波大学への異動のために引越の準備に追われていた。当時はとにかくあまりに忙しく、現実逃避のため、研究室の本棚の隅に放置しておいた『フィネガンズ・ウェイク』を何気なく手に取り、ぱらぱらとめくったのである。すると、ふと「興部」という言葉が目に入った。それまでこの訳に詰め込まれた大量の言葉の渦に拒否反応を示していた私の脳が、この言葉には反応したのだった。なぜか。それは「興部」(おこっぺ、と読む)が、私の出身地、北海道の地名であったからである。JR常磐線にあまり乗らない私には吉増剛増とは違って日暮里にはあまりなじみがないが、興部なら土地勘がある。敬遠していたテキストの中になじみがある言葉を見つけて

うれしくなってしまったというわけだ。

それにしてもなぜ「興部」というマイナーな北海道の地名が *Finnegans Wake* の翻訳に出てくるのだろうか？ 鬼才ジョイスは北海道のアイヌ語地名まで知っていたのだろうか？ 私はあわててペンギン版を買い求め原文の該当部分を探すと、それは“Malagassy?”であった。これは「マダガスカル人・語」を意味する名詞であり、ジョイスが「興部」なる北海道のアイヌ語地名を知っていたわけではなかったのである。“Malagassy?”を「くさい興部？」と翻訳したのは柳瀬その人だったというわけだ。

私はこの翻訳の突き抜けぶりに感嘆し（「ノート」の21を参照）、同時に柳瀬が「興部」というマニアックな地名を知っていることに感心もした。しかし、この人が北海道の根室市出身であることを思い出して納得した。この人は、アイヌ語と漢字が緊張関係を保っている北海道の地名——北海道の地名の多くがアイヌ語の地名に強引に漢字を当てはめたものであることは周知のとおり——に詳しいのだ。多言語状況に知悉しているジョイスのテキストを翻訳する時に、アイルランドとよく似た多言語状況の北海道のアイヌ語地名を使用するとはさすが柳瀬尚紀。この翻訳は、ジョイスのテキストに詰め込まれた言葉の歴史、政治、要するにうねりのようなものまでも日本語に移植し、パフォーマンスさせようとするものだったのだ。これは、全てを通読しなければならない。私は、つくば市にやってきてすぐに必須参考書であるマクヒューの注釈書などを買い求め、ペンギン版と柳瀬訳を並べて「くさい興部」周辺を手始めに読み始めた。すると、意外なほど多くの北海道の地名、特にアイヌ語が元になっている北海道の地名が訳文の中に組み込まれていることがわかったのである。そして、少なくとも私は、この柳瀬訳における北海道のアイヌ語地名について詳細に検討した研究は寡聞にして知らない。本研究ノート冒頭部に引用した吉増剛増の詩はあるものの。

以下のノートは、私が確認しえた限りのアイヌ語地名を列挙し、それがどのような意味作用を担っているのかを考察してみたものである。このノートが、研究はおろか通読もあまりされない柳瀬訳『フィネガンズ・ウェイク』に込められた日本語、特にその闘争（2:2, 9, 10, 14②, 20など）を味読し、読者自身がジョイス／柳瀬を反復実践する一助になればと考えている。

なお、この研究ノートの補遺・追加・訂正などは、私のホームページにおいて適宜行う予定である。

<http://www003.upp.so-net.ne.jp/hspstcl/index.htm>

II 参考文献

Joyce, James. *Finnegans Wake*. Penguin Classics, 2000. (テキストはこのペンギン版を使用する。ノンブル等はフェイバー&フェイバー版と同じである。以下、「ノート」ではかっこ内に頁数のみを記す。)
宮田恭子抄訳『フィネガンズ・ウェイク』集英社, 2004年 (略称: 宮田)
柳瀬尚紀訳『フィネガンズ・ウェイク 1～4』(全3巻), 河出文庫, 2004年 (柳瀬 I～III)

『角川日本地名大辞典 1 北海道』上巻, 角川書店, 1987 (角川)
『漢字源』改訂新版, 学習研究社, 2001年 (漢字源)
『広辞苑』第5版, 岩波書店, 1998年 (広辞苑)
『ジーニアス英和大辞典』大修館書店, 2001-2年 (ジニ大)
寺島柁史『根室郷土史』岩崎書店, 1951年 (寺島)
本多貢『北海道地名分類辞典』北海道新聞社, 1999年 (本多)
『ランダムハウス英和大辞典』第2版, 小学館, 1993年 (ランダムハウス)
『リーダーズ英和辞典』第2版, 研究社, 1999年 (リーダーズ)

Encyclopedia Britannica 11th version (1911) <http://www.1911encyclopedia.org/> (EB)

McHugh, Roland. *Annotations to Finnegans Wake*. Rev. Ed. Johns Hopkins UP, 1991. (McHugh)

注: 『漢字源』『広辞苑』『ジニ大』『リーダーズ』『ランダムハウス』は電子辞書 (SII, セイコーインスツルメンツ) に収録されたものを使用した。

III ノート

注:

●以下の記述は、参考文献からの引用など、ジョイス/柳瀬のテキストを解説するための情報である。■以下の記述は私 (齋藤) による解釈である。また下線はすべて筆者 (齋藤) によるものである。

【頻出地名】斜里，羅臼，根室

1 斜里

the Earwickers of Sidlesham in the Hundred of Manhood (30)

ひやつかのぐんあざしやり 百家之郡字斜里のイアウイッカー一族 (柳瀬 I, 68)

● “Hundred of Manhood, West Sussex” (McHugh)。Sidlesham も Eawicker もそれぞれイングランドに実在する村・家族の名前である。なお以下の URL で Sidlesham の関連画像を閲覧できる。

<http://www.finneganswake.info/wakepics/Sidlesham.html>

斜里「①湿地にある川 (永田) ②葦の生えている処 (便覧) ③葦が生えた湿原 (知里)」(本多, 100)。

■ Sidlesham は slide(s) (斜面) と ham (村) なので, 「斜里」(斜面の里) となる。実際, 斜里町は斜里岳山麓に広がる農村である。

1:2

A phantom city, phaked of philim pholk, bowed and sould for a four of hundreds of manhood in their three and threescore fylkers for a price partitional of twenty six and six. (264)

幻影の市, 影画人のでっちあげが, ひやつかのぐんあざしやり 百家之郡字斜里の六十三区の四は二十六と六の価格分譲にて売買される。(柳瀬 I, 94)

■ 1 を参照。

1:3

The wholes poors riches of ours hundreds of manhoods and womhoods. (375)

ひやつかのぐん 百家之群のしゃ斜里で しやり 男体沢山と なんたいたくさん 女護土島の によごのとしま 貧富総民で。(柳瀬 I, 347)

● “womhoods=womanhood” (McHugh)。

■ 根釧地方 (3:3を参照せよ) では阿寒湖畔に対峙してそびえ立つ (「しゃ斜里で出る」) 雌阿寒岳と雄阿寒岳が見える場所が多い。ただし, この二峰は斜里町からは斜里岳と知床連山が障壁になって見えない。

1:4

the hundering blundering dunderfunder of plundersundered manhood

(596)

ひやつかのくんあさしやり

百過之群痣斜里。(柳瀬Ⅲ, 400)

● “*Du. donder; thunder. Founder*” (McHugh)。なお founder は名詞だと「創立者」だが動詞では「馬がよろめき倒れる」, 「沼地にはまりこむ」という意味がある。

■ Hundred of Manhood が織り込まれているので「斜里」。

2 羅臼

rawl chawclates for moucher-in-louth. (49)

なまま

生巻きシャベレートは羅臼ラウスぐら口のお義母つかあに。(柳瀬Ⅰ, 104)

● “Louth” [《アイルランド東部 Leinster 地方の Irish 海に望む県；☆Dundalk；略 Lou.》] (リーダーズ)。参考：レンスター [《アイルランド共和国東部の諸県 Carlow, Dublin, Kildare, Kilkenny, Laoighis, Longford, Louth, Meath, Offaley, Westmeath, Wexford, Wicklow からなる地方で、かつてのケルト王国 North～と South～を合わせた地；cf. Connacht, Munster, Ulster》] (リーダーズ)。

羅臼「①低い所にある川〔永田〕②根を食用にする草の葉〔葛など〕が多い〔更科〕③昔、鹿・熊などを捕り必ず屠りし故、その臓腑や骨などがあった場所〔上原、便覧〕」(本多)。

■ Louth と羅臼の音が同じである。羅臼町は知床連山を挟んで斜里町の裏側にある漁業の街である。歴史的に羅臼町と斜里町の境界線から南が旧「メナシ・ネムロ」(江戸時代)、「根室県」(明治初期)であった。つまり羅臼は根室(ダブリン)圏内となる。ちなみに現在は「北海道根室支庁目梨郡羅臼町」。

2:2

And giving it out to the Ould Fathach and louth-mouthing after the Healy Mealy with an enfysis to bring down the rain of Tarar. (329)

ろうきよふ
老巨父のもとに届かせ、せいぼ 霽姥の背にラウスこえ 鑼臼声を虹ませて、らいう タラふく雷雨を怖らせてたまえと。(柳瀬Ⅱ, 257)

● “*I: fathach; giant. Co. Louth. Our father. Loudmouthing. Holy Mary+ Tim Healy (betrayal of Parnell). Emphasis + We: enfys; rainbow. Reign of Terror + Tara*” (McHugh)。「タラ①《アイルランド Dublin 北西方の村；近くにあるタラの丘 (154位) は古代アイルランド諸王の砦 (王座) があつたと

ところで、キリスト教化以前の同国の文化の中心》②『風と共に去りぬ』スカーレット・オハラの生まれ育った農園」(リーダーズ)。“We: taran; thunder.” (McHugh)

■江戸時代には、羅臼岳すなわち「チャチャヌプリ」は秀麗な名山としてアイヌと和人の信仰対象だった。そして、羅臼(=サイドル村)から根室(=ダブリン)に至る海岸線には多くのコタンと場所(松前藩と和商人がアイヌを搾取した)があった。だからこそ1789年のクナシリ・メナシの戦いも起こった。柳瀬訳に織り込まれた羅臼とラウスとタラという記号は、蝦夷地(北海道)とアイルランドにおける人々の抗争の歴史を感じさせる。

2:3

(they were saycalling again and agone and all over agun, the louthly meathers, the loudly meaders, the lously measlars, six to one, bar ones).

(336)

(やつらは再散去り四さいさんさりし、繰り返し砲かほうけて、再繰さいくりリングに絶叫ぜつきようしてたね、白薄しろはくつとほけたミースみいすばらしいやから、鑼白らっはく声こゑのむこう見み一いちず暴走ぼうそうやつら、面薄めんはくぎたない水疱瘡みずほうそうのやつら、六把ろっぴ一ひとからげよ、半端はんぱを除のぞけば)。(柳瀬Ⅱ, 269)

●Louthが織り込まれている。

2:4

from Rathgar, Rathanga, Rountown and Rush, (497)

ラ津軽ラツガル, ラ佐賀ラサガ, 羅臼ラウスタウンラウン, 楽古ラコシュ岳ダケから, (柳瀬Ⅲ, 201)

●McHughによれば、RathgarとRoundtownはダブリンのdistrictである。また、キルデアの南にラサンガンがある。ダブリンの東になる (<http://www.kildaretown.ie/>)。Rushはダブリン近郊の村。

■音の類似か。楽古岳は日高山脈の秀峰。「津軽」は、津軽藩が幕府からロシア南下政策のため道東警護を要請されたという歴史と関係があるのだろうか。「佐賀」は道東開拓に深く関わっている佐賀藩との関係か(寺島を参照)。

2:5

How he stalks to simself louther and lover, immutating aperybally. (460)

なんシなんェムシムやみにますます銅喇どうら磴ごえ声こゑを羅罵らま一いち瞥りあげて、だれかれたまわさるまねおんどず猿真似さるまねおんど音怒おんど。(柳瀬Ⅲ, 123-4)

■2:3とこれは、Louth に loud の響きを見出しているようだが、実際の羅臼町はひっそりとした漁村である。冬の荒れた日は例外。

2:6

(the sword on Whencehislaws was mine and mine the prussing stock of Allbrecht the Bearn), (539)

(武^フ魔^エ杖^ス修^ラ羅^ウ碓^スの^ホ法^ウ刀^トこそわれのもの、われのものこそ荒^{アラ}熊^{クマ}公^{コウ}こと荒^アル^ル振^フレ^レ人のプロ^シロ^ロ仕^シ上^シげ^ゲの仕^シ込^コみ^ミ杖^ヅ) (柳瀬Ⅲ, 292)

● “Sword of. Wenceslau I, king, first built walls of Prague. Albert I (‘the Bear’) : Margrave (神聖ローマ帝国侯爵；辺境伯 [リーダーズ]) of Brandenburg, founded Berlin” (McHugh)。

■ “Wenceslau I” が “Whencehislaws” になっている。“Mother-in-law” [2]があるので「ラウス」(羅臼)を入れたのであろう。

3 根室

into the shipfolds of our quadrupede island, bless madhugh, mardyky, luusk and cong! (325)

われらの四^よつ足^{あし}島^{じま}の形^{ちん}客^{きゃく}となんなよ、狂^{くる}い日^{ヒュー}向^ガの真^マ鯛^{タイ}の連^{レン}州^ス多^タ、輪^わっか^な無^{ない}いで困^{こま}ル^ルコ^コとでもアル^{アル}ン^ンスタ^{スタ}かね、寝^ね室^{むろ}は見^みル^ルカ^カらに怠^{たい}慢^{マン}廢^ヘれ、対^つ馬^{しま}の余^ヨ波^ハ音^ネの^コノ^ノート^トどろ^ろき！ (柳瀬Ⅱ, 249)

● “Matthew, Mark, Luke & John. Hugh O’Neill (Red Hand of Ulster) [(ア^アル^ルス^スターの)赤^あい^い手^て, レッド^レド^ドハン^ンド→北^北ア^アイル^ルラ^ランド^ドの紋^紋章^章]; Mardyke, Cork (Munster); Lusk, Co. D (Leinster); Cong, Co. Mayo (Connacht)” (McHugh)。

根室「(ねむろ, 市, 国, 旧郡, 旧県, 半島名) ①ニ・ム・オロ=木が・密生, 流れ木が・詰まる・処 (永田・樹木繁鬱, 要覧) ②メム・オロ・ペツ=泉, 湧壺・がある・川 (駅名) ③ニ・モイ=木・湾 (松浦『戊午日誌』・湾内の海底に埋もれ木多い) ④ニ・ムイ=木・箕 (松浦) ⑤ニノ・オロ=ウニ・ある処 (上原) ⑥ニイモヲロ=湾内波静かで樹木繁茂 (上原) ⑦ネシコ=オニグルミの実など」(本多, 160)。／稚内「(わっかない, 市, 大字町名) ヤム・ワッカ・ナイ=冷たい・水の・川 (山田, 松浦, 永田)。今の港1丁目辺りのフシコ・ヤムワッカナイ川に鮭が寄ってきたのが起源」(本多, 227)。

■ “luusk” には Lusk, Co. D (Leinster) が織り込まれているが、この「ダブ

リン(州)」が「根室」に翻訳されている。これは必ずしも荒唐無稽とは言えない。根室市は1945年日本国が千島列島を失うまでは道東の商業・行政の中心地であった。しかし1945年7月14-5日の空爆で市内の八割が炎上、さらに北方領土を失って漁業基地としての地位も低下、釧路市に道東の拠点の地位を奪われていったのである。高校三年生まで根室市で暮らし、早稲田大学を目指していた柳瀬にとっては、根室市はまさに「怠慢廃れ」(lusk《廃》怠惰な〔リーダーズ])ていたのではないか。稚内は不明。

3:2

And as I was jogging along in a dream as dozing I was dawdling, arrah, methought broadtone was heard and the creepers and the gliders and flivvers of the earth breath and the dancetongues of the woodfires and the hummers in their ground all vociferated echoating: Shaun! Shaun! (404)
 そしてわしがえっちらおっちら夢のなかをとろとろぶらぶらしていると、ありやま、根室^{ねむろ}一つおっぴろがりな声^{こゑ}がしたと思つたら、這^はいずるのや土^{つち}の息^{いき}した滑^{すべ}るのや飛^とぶのや、焚火^{たきび}の踊^{おど}り舌^{した}や浅瀬^{あさせ}の海老^{えび}づらでぶんぶんいうのや、そいつらがみんなしてがなりこだまの始^{はじ}まりときた。ションン！ションン！（柳瀬Ⅲ，10）

●“Broadstone railway terminus, D.” (McHugh)。1937年に廃止されたりフィー川左岸の駅だった。

■JR 根室駅は根室本線の終点である。この駅はまだ現役だが、小さく古い駅である。到着すると、「根室～、根室～」という「おっぴろがりな」(broad tone) 運転手のアナウンスがきこえる（場合もある）。早稲田大学入学のため上京した柳瀬もこの「おっぴろがり」な国鉄職員のアナウンスが響く根室駅をあとにしたのではないか。

3:3

--Hellohello! Ballymacarett! (501)

——もしもしもし！こいつは根釧原野！（3;209）

●Ballymena「バリミーナ、北アイルランド北東部の地区、その中心の町、2.8万人」（リーダーズ）。Ballymoney「バリマニー、北アイルランド北東部の中心の町」（リーダーズ）。

根釧「(こんせん、原野名) 釧路川東方、根室、釧路2支庁域におよぶ広大な

台地。根釧原野ともいう。根室・別海町の春別、平糸2原野の機械開墾地が根釧パイロットファーム」(本多, 311)。／根室は既出。／釧路「(くしろ, 市, 郡の町, 川, 平野) ①クツ・チャロ = 喉咽 (永田・屈斜路湖畔のアイヌを1635年に移した) ②クシュ・ル = 超える・道 (上原) ③クスリ = クスリ, 温泉 (松浦・悪疫流行時に川水飲んで死者なし)」(本多, 71-2)。

■<http://www.ballymoney.gov.uk/htmlsite/maps.asp>によると、この二つの町は南北で隣接している。以上二つの地名をふまえた上で、「根室」と「釧路」をくっつけた「根釧」という地名に翻訳したのではないか。

【その他のアイヌ語地名】

4 阿寒, 風連

It's churning chill. Der went is rising. (213)

だんだん阿寒になってきたわね。風蓮も出てきた。(柳瀬 I, 397-8)

●“River Churn. Turning”(McHugh)。“River Derwent”(McHugh)。“DERWENT (Celtic Dwr-gent, clear water), the name of several English rivers. (1)The Yorkshire Derwent.(2)The Derbyshire Derwent.(3)The Cumberland Derwent rises below Great End in the Lake District, [...]” (EB)。

阿寒「①アカム = 車輪 (松浦『郡名建議書』・雌雄の山が両輪の如く並び聳える故) ②ラカン = ウグイの産卵穴 (永田) ③アカン = 不動 (町史, 佐藤) 昔の大地震で雄阿寒岳が動かなかったので付近一帯の名になった」(本多, 8)。／風連「(ふうれん, 根室市の湖名, 根室・別海町の川名) フレ・ベツ = 赤い川 (永田)。風蓮湖は根室市と別海町にまたがる根室湾岸の潟湖, 野付風連道立自然公園に属し白鳥が飛来, 丹頂鶴育成地。風連川は根釧台地西部から根室市・別海町境界を流れ風蓮湖に入り, 下流は広い三角州。流域が低湿地なのでヤチ水で赤い (本多, 178)。

■“turning chill”「寒くなる」, ということで「阿寒」。「(寒くて) もうアカン」の駄洒落も入っているだろう。また, “churn” (攪乳器) で「阿寒」(アカム = 車輪) という連想もあり得る (阿寒の東に広がる根釧台地は日本有数の畜産地域)。「風連」は根室市近郊の大きな湖がある公園で, 冬は白鳥の飛来地として有名。ここから River Derwent が「湖水地方」ということで, つながる。

4:2 風連

You rejoice me ! Faith, I'm proud of you, French davit ! (464)

助^{シヨイス}怡^イ賺^ズかしてくれるじゃないか！まこと、おれはおまえが^{はこ}誇^ホりさ、^{フレンナ}風連^ナ恥^チな
蛇^{ヘビ}尾^ビ弟^{テイ}だもんなあ！(3;133-4)

■「風連湖」に当たるような湖名は原文には織り込まれてはいない（ように思われる）が、根室市近郊の風蓮湖周辺の地形は「蛇尾」に見えないこともない。

5 静内、天塩

Deataceas ! Wharnow are alle her childer, say ? (213)

静^{しず}内^{ない}に願^{ねが}いたいね！あのひとの天^て塩^{しお}にかけた子供^{こども}たちは今どこにいるの？（柳瀬 I, 398）

●Deataceas ! 「黙って {ローマ神話} おしゃべりの妖精ララが舌を切られてムータ、またの名タキタとなる。英語 tacit (無言の) の語源)」(宮田, 252)。
“River Wharnow. River Alle. G: Alle. Dea Tacita: nurse of Romulus & Remus” (McHugh)。

静内「(しずない, 日高) ①シ・フツチ・ナイ=曾祖母の沢(上原, 永田・アイヌ始祖がいた, 便覧) ②シュトウ・ナイ=葡萄・沢(永田) ③シュツ・ナイ=麓の・川(知里)」(本多, 96)。／天塩「(てしお, 留萌) ①テシ・オ=築がある(上原・テシウニ→テセウ)～ように岩が一列に並んでいる川(松浦『国名建議書』・川上五十里許り神が造った一条梁様に岩之瀬御座候) ②テシ・オ・ベツ=築・多い・川(永田, 知里) ③テッシ=築(町史)」(本多, 133)。

■「静内」は「静かにしなさい!」。なお、静内川は北海道日高地方の川。また、天塩川も北海道の大河。原文に言及がある二つの川、Wharnow 川と Alle 川を翻訳している。

6 夕張、歴舟

till she rounded up lost histereve with a marigold and a cobbler's candle
in a side strain of a main drain of a manzinahurries off Bachelor's Walk.
But all that's left to the last of the Meaghers in the loup of the years pre-
fixed and between is one kneebuckle and two hooks in the front. (214)

ひと みよこちよう たま はやみず おおよとわきみぞ せうばり
独^{ひと}り身^み横^{よこ}町^{ちよう}はずれの多^た摩^まり早^{はや}水^{みず}の大^{おお}淀^{よと}脇^{わき}溝^{みぞ}で夕^{せう}張^{ばり}のなかに見えなくなっ
だつて。でも前^{ぜん}項^{こう}と中^{ちゆう}項^{こう}の輪^わ島^{しま}の歴^{れき}舟^{ふね}潤^{うる}う歳^{さい}月^{げつ}で、(柳瀬 I, 398)

■“River Lost” (McHugh)。“Last, yestereve. L: hesternus; yesterday's +

history. *L*: Ister; River Danube. 'Man' s-in-a-hurry ... here used for a place for making water.' River Manzanares. Bachelor's Walk, Dublin (beside Liffey). *Du*: in de loop der jaren; in the course of years. River Loup" (McHugh)。

夕張「①ユ・パロ＝温泉の・出口（松浦，永田）②ユー・パロ＝鉱泉のわき出る処（便覧）③イ・パル＝それ（千歳方面）への・口（知里）④ユーバリ＝硫黄臭がある（松浦『再航蝦夷日誌』）」（本多，216）。／歴舟「（れきふね，十勝・大樹町の川名）①ペ・ルプネイ＝大水・川（永田・直訳水大なる処）②ベルブネナイ＝水押し下る（松浦『東蝦夷日誌』・詰てベロツナイ，西南の風吹時に出水）」（本多，225）。

■ “histereve” の「昨晚」「夕」のイメージと，大河ダニューブ川の組み合わせを，石狩川の大きい支流である夕張川で表現したのではないか。また，十勝の大樹町に歴舟川という清流があるが，“Years” を「歴」で訳したのではないか。なお，「歴舟」はもともと「ペ・ルプネイ」なので，ループ川（米国 Nebraska 州中西部 Sand Hills に発し Platte 川に合流する〔リーダーズ〕）とつながる。

7 長流

Ussa, Ulla, we're umbas all! (214)

^{おもご}面河にも ^{おさる}長流にも，あたしたちはみんな ^{うわ}宇和 ^{かげ}ついた影よ！（柳瀬 I，399）

● “*I*: 'uise; well. *I*: olla; splendid. *L*: umbra; shadow. River Ussa(?), River Ulla, River Umba” (McHugh)。

長流「（おさる，伊達市の旧字名）①オ・サル・ウン・ベツ＝河口に・アシ原・がある・川（山田）②オサレ・ベツ＝急流・川（永田，直訳投げける川）③ラシヤルベツ＝湿沢，谷地ある川（上原）④ラシヤラベツ＝禽獣魚虫の尾シヤラに似ている（櫛丸）」（本多，55）。☆中学の修学旅行で“お猿の学校”とからかわれ[19]58年字長和と改称。

■ River Ussa→面河川（愛知県中部，石鎚山南麓の面河川にある溪谷〔広辞苑〕）。River Ulla→長流川。River Umba→宇和島。要するに，これらの地名の母音（オ，オ，ウ）で原語の母音を表現している。

8 音更

It all but husheth the lethest zswound. (214)

どんな篠^{ささ}いな音^{おと}が高根^{たかね}っても、ほとんど音更^{おとふけ}。(柳瀬 I, 399)

● “River Lethe. Least sound” (McHugh)。

「町名の音更は、アイヌ語のオトプケ（毛髪が生ずる）から転訛したもので、音更川と然別川の支流がたくさん流れているところから付いたと言われ、町内に流れる音更川の河川に密生していた化粧柳の木が、まるで髪の毛の吹き乱れるようであったところから、この名が付けられたという説と、音更川の流れがあたかも風に乱れた髪の毛のように吹き荒れていたという二つの説がある」(音更町ホームページ：<http://www.town.otofuke.hokkaido.jp/gaiyou/index.html>)。

■レーターはギリシャ・ローマ神話の「忘却の川」である。そして、「音」が「更ける」＝「老ける」で“least sound”を表現している。「篠^{ささ}いな音^{おと}が高根^{たかね}」る場所としてもオトプケ（化粧柳の木が、まるで髪の毛の吹き乱れるようであったところ）はふさわしい。

9 雄武

Is that the great Finnleader himself [...] (214)

あれは大井^{おおい}なるフィン雄武^{おうむ}じゃないこと、(柳瀬 I, 399)

● “River Finn” (McHugh)。「フィンリーダー 一、アダム・フィンドレーターはエドワード七世時代の商人で、食品雑貨販売で得た富をダブリンの建造物の修復に投じた。二、フィン人の長。三、フィン親分、すなわちフィン・マックール」(宮田, 253)。

雄武「(おうむ、網走・町、字、川名) ①ヲ・ム＝塞り・有る (上原・川口折節塞る) ②オ・ム・イ＝河口が・ふさがる・処 (永田)。風や潮流が河口を砂でふさいだ」(本多, 42)。

■まず、River Finn を、大井川 (静岡県中部、駿河・遠江の境を流れる川。赤石山脈に発源し、駿河湾に注ぐ。長さ160km。江戸時代には、架橋・渡船が禁じられ、旅人は必ず人足を雇って肩車または輦台「れんだい」で渡った。「越すに越されぬ〜」〔広辞苑〕)、そして雄武川として翻訳している。特に後者「雄武」が「フィンリーダー」すなわち勇者のイメージを喚起する。実際、「雄武」という地名には、「寛文9年(1669) シャクシャイン蜂起の際の「狄在所の名」に「をむ村、同百人程、大将名不知」とあるのが初見(津軽一統志) (角川, 223) という歴史も刻み込まれている。この「をむ村」の大將は、はるか彼方の平取のシャクシャインに呼応して100人を集めたのであるから、相当な有力者であ

ったと思われる。

10 宗谷

I sonht zo! (214)

そうや おも
宗谷と思った! (柳瀬 I, 399)

● “I thought so. River Isonzo” (McHugh)。

「イゾンツォ川：スロヴェニア北西部から南流してイタリア北東部に入り，Trieste 湾に流入する」(リーダーズ)。宗谷「(そうや，稚内市の大字) ①ソ・ヤ＝岩礁が多い・海岸(永田) ②ショウ・ヤ＝海獣のとまる・磯の岳(上原・パラキナイと称した) ③ソウヤ＝峰の巢(松浦『廻浦日誌』)」(本多，115)。

■イゾンツォ川は，国境の町，ジョイスゆかりのトリエステ(イタリア，オーストリア，ユーゴスラビア等々に接する地域)に流れ込む。そして，1945年からソ連そしてロシアとの国境の町になった稚内市にある宗谷岬。音はもちろん，地理的にもうまくつながる。

11 利尻

Your rere gait's creakorheuman bitts your butts disagrees. (214)

りしり ある すかた
あなたの利尻な歩き姿のグレコロリューマチ蝶番が噛み合わないのさ。(柳瀬 I, 400)

● “Gates. Graeco-Roman but your buttocks. Rheumatic. Gr: rheuma; stream. Buttresses” (McHugh)。

利尻「(りしり，宗谷・島，郡，町名)リ・シリ＝高い・島(山田)」(本多，220)。

■①「グレコ＝ローマンスタイル《フォールをとるのに脚を使わず，また腰から下に手をかけない》」(ジニ大)。尻を強調した「噛み合わない」な歩き方，つまり「利尻」ということか。②利尻山(利尻富士)を見ると斜里岳，羅臼岳(知床富士)にも劣らぬ秀峰で，グレコ＝ローマンスタイルの選手たちの尻(腰)の高さをもイメージさせる，のかもしれない。③rheuma=stream だから，天塩原野と利尻山との間の利尻水道のイメージも加わる。

12 様似

marthared mary allacook, (214)

マーサー・メアリー・アラコックさまに様似でさ，(柳瀬 I, 400)

●「殉教者メアリー・アラコック 十七世紀のフランス・サレジオ会の修道女，

聖マルグリット・マリー・アラコックは洗濯をしたあとの汚水を飲み水にした」(宮田, 254)。“River Mary” (McHugh)。なお、これはオーストラリアのダーウィンにある川である。

様似「(さまに, 日高・町, 郡, 川名) ①エサマン・ベツ=カワウソが住む・川(松浦, 永田) ②エ・サマン・キ=それ(カワウソ)で・占う(本多) ③サムン・ニ=倒れた・木(栃木) ④サンマウニ=朽れ木のある処(便覧) ⑤サマニ=横になっている川(山田・川尻が海に向かって横に流れている)。他に⑥シャマニというアイヌ女の名(櫛丸) ⑦シャンマニ=高山有処(松浦『戊午日誌』)など」(本多, 88)。

■柳瀬 I の374頁で「川瀬が川宇瀬に飛び込んだかつてことまで」とあるので、本多①の意味を持つ「様似」は“River Mary”の翻訳としては的確である。またメアリー・アラコックから本多⑥の「シャマニ」へのつながりもおもしろい。

13 沙流, 利別

Forgivemequick, I'm going! Bubyee! (215)

忘れな草とは思うけど、あたしはそろそろ沙流つもり! 利別ね! (1;401)

●“River Bubyee” (McHugh)。なお、これはジンバブエの川である。

沙流「(さる, 場所, 郡, 川名)サル・ベツ=湿地の・川(松浦)。川は長さ103.8 km, 鶴川に次ぐ日高地方第2の一級河川」(本多, 84)。参考: 利別「(としべつ)。「地名は、アイヌ語のトシベツ(縄のような川の意)に由来し、縄のように曲がりくねった利別川の流路の状態から名付けたという(池田町史)」(角川, 961)。

■①“I’m going!”を「去る」で「沙流」(さる)。②英語の“Bye”に似ている River Bubyee を念頭において、十勝の陸別町～足寄町(鈴木宗実と松山千春で有名)～本別町を流れ、池田町で十勝川に合流する利別川(としべつ・がわ)を「りべつ」と読みかえて「離別」の意味に使ったのか。

14 野付, 色丹

Befor! Bifur! (215)

野付が! 色丹! (1;401)

●“River Biferno. Bifurcate” (McHugh)。

野付「(のつけ, 根室・別海町の字, 半島, 岬, 湾, 水道, 郡名) ノッケウ＝

岬, あごの・骨 (上原・流れ大鯨の顎が岬に, 永田・半島の先端があごの形をしている)。根室海峡に突き出る分岐砂嘴^{さす}が野付岬, 野付風連道立自然公園の中心地区。野付岬と国後島南西端の根室海峡の最狭部が野付水道 (本多, 162)。/色丹「(しこたん, 北方領土の島, 旧郡, 水道名) シ・コタン=大きい・村 (山田)。志古丹, 支古丹と書き, シャコタンとも呼んだ。根室半島沖東方75kmの島で大戦後にロシアが占領」(本多, 95)。

■①二次大戦中の1943年にイタリアで「テルモリの戦い」があった。このテルモリの近くに Biferno 川がある。Inferno (地獄) の二倍ほどひどかったという意味を読み込めるかもしれない。http://www.warlinks.com/termoli/ ②江戸時代は野付半島から国後島への航路があった(色丹島は分からない)。実際, 野付半島から国後島はくっきり見えるが, 色丹島は見えない。Befor も Bifur も一応 “before” (前) をふまえた言葉だから, 国後より色丹なのか(しかし色丹それ自体では「前」の意味が出ない)。肉眼では見えない色丹島の方が, 1945年に事実上の国境ができてしまった歴史を強く喚起するか(でもそれなら択捉島でもいいのではないか?)。そしてこの分断を bifurcation に込めているのか? ③Bi-とあるので, 相撲の「四股を踏む」のニュアンスがある。そして, 直前に “hues” 「色(色)」という言葉があるから「色丹」(村山敏勝の指摘による)。

15 茶路, 空知

in their pinky limony creamy birnies and their turkiss indienne mauves.

(215)

桃^{もも}ノ木^きに白^{しろ}を黄^き瀬^せた^{ちやろ}みたい^{こも}いな茶路^{そらち}っばい衣^{あいしま}に空知^{くろまた}ゃけた藍^は縞^はの黒^は又^はなんか履^はいて。(柳瀬 I, 402)

● “River Lim (デヴォン, ドーセットの川, セルビア・モンテネグロの川, 他〔齋藤〕). River Indian. Indigo. River Milk (グラスゴーの川〔齋藤〕). Da: turkis; turquoise (トルコ石, 明るい青緑色〔齋藤〕)” (McHugh)。

茶路「(ちやろ, 釧路・白糠町の字, 川名) チャロ=その口(松浦, 町史・川口)。江戸期にシヤロ, サル川と呼ばれた交通の要地。釧路アイヌが十勝川筋の足寄郡へ行く主要路入り口だったから「その口」(本多, 129)。/空知「(そらち, 滝川・砂川市の町, 支庁, 郡, 川名) ①ソ・ラプチ=滝が, ゴチャゴチャと落ちている(知里)②ソ・ラプチ=滝・下る・所(永田・滝川) (本多, 116)。

■River Lim や River Milk 等々の rivers を茶路川と空知川で翻訳した。これ

らの川に「茶」(birnies→browny)と「空(色)」(turkiss→turquoise)という色が織り込まれているためであろう。

16 声問

Tys Elvenland! (215)

しっ、声問の妖精国が! (柳瀬 I, 402)

● “Da: tys; hush! Da: elve; small river. Bartholomew’s *Handy Gazetteer*: River ‘Tys Elv’. River Elfenland. Du: elvenland; fairyland” (McHugh)。声問「(こえとい、稚内市の大字村、川、岬名)コイ・トゥイエ=波が・崩れる(永田・浪越し、浪で砂場壊決する処)」(本多, 81)。

■コイトイ川(声問、恋問)は道東各地にある。有名な「コイトイ」に、クナシリ・メナシの戦い(1789年)で蜂起したメナシ七つのコタンの一つ(野付半島の根本)がある。根室市にもかつて恋問川があった。なお、“Hush”(しっ)については以下の通り:「問」は「口+音符門」で、わからないことを口で探り出す意」(漢字源)。「門」は「聞(耳でわからないことを探る)」と同系」(漢字源)。

17 音別

Ho, talk save us! (215)

ああ、話を音別してよ! (柳瀬 I, 402)

● “River Save (ベルグラード〔セルビア・モンテネグロ〕の川〔広辞苑〕). Safe” (McHugh)。

音別「(おんべつ、釧路・町、字、川名)①オ・ム・ベツ=河口が・ふさがる・川(知里)②ウン・ベツ=河口がふさがるところ(便覧)③オン・ベツ=腐れ・川(永田・川に入った魚がすぐ腐る、松浦『東蝦夷日誌』・楡皮を浸し腐らせた)④オンカ・ベツ=楡皮を温泉に浸してうるかす・川(山田・水質が強い)」(本多, 59)。

■River Save を音別川に翻訳しているのは恣意的なようだが、この箇所の後に出てくる「楡」とかけて「音別」(特に本多③④の意味)にしたのであろう。

18 千歳、春別

Temp untamed will hist for no man. As you spring so shall you neap. (196)

千歳ちとせは人ひとに待まったをまかけずまというから。春しゅん別べつの大おお潮しほがあれば小こ潮しほがあるし。(柳瀬 I, 365)

● “Pr: Time & tide wait for no man. Odysseus (Outis: no man). Pr: As you sow so shall you reap. River Spring. Spring & neap tides” (McHugh)。千歳〔(ちとせ, 市, 郡, 川, 空港名)シ・コツ=大きな・窪地(永田・大谷)。元禄郷帳に「しこつ」。1805年死骨に通じると嫌って鶴の千年にあやかり箱館奉行羽太正養がシコツ川をチトセ川と改称〕(本多, 124)。／春別〔(しゅんべつ, 根室・別海町の字, 川, 原野名)①シユム・ベツ=油の・川(松浦『東蝦夷日誌』・鯨の油を絞った)②シユム・ベツ=溺死・川(永田)③シユム・ベツ=西・川(駅名)。日高なら西川だが, ここでは地形上から考えられない(山田)。根室海峡に面した春別川流域, 1869年根室国野付郡, 72年平糸村, 川は標高100mの大地から東流し根室海峡に出る。下流は湿地, 河口が大白鳥の越冬地。原野は1955年からパイロットファーム事業, 73年新酪農村建設事業〕(本多, 103)。

■①フランス語の Temps (時間) と英語の untamed (飼い慣らされていない), それにオデュッセウスの長年の放浪をふまえると, 「鶴の千年にあやかり」というニュアンスを含んだ「千歳」は的はずれな訳でもないだろう。②Spring があるから「春別」を使ったのであろう。「別」(べつ→ベツ, アイヌ語で「川」の意味)で River Spring の翻訳にもなる。

19 浦士別

O, passmore that and oxus another! (197)

ねえ, それはもう今切いまぎれにして浦士別うらしべつのことを聞いて! (柳瀬 I, 366)

●今切「静岡県西部, 浜名湖が海に続く湖口。1498年(明応7)大地震で砂州が切れて海とつながった。江戸時代に渡船が通い, 今切の渡または荒井の渡といった。関所があって, 特に女人の往来を取り調べた」(広辞苑)。／浦士別〔(うらしべつ, 網走市の字, 川名)①ウライ・ウシュ・ベツ=築・ある・川(永田)②ウライ・アシュ・ベツ=築・ある・川(上原)。(中略)浦士別川は瀧沸湖に注ぐ最大の川で, ウラシベツ・ウンクルという有名なアイヌ首長がいた(更科)〕(本多, 36)。

■①Pass で今切の「関所」ということか。「特に女人の往来を取り調べた」のを「切」るで, “pass more [men and women]”。なお, “Passmore” で電子辞書版『リーダーズプラス』をひくと, Passmore 氏が創設したエセックスの

歴史文化についての小博物館がひっかかる。テムズ川河口地域の湿地帯すなわちエセックスという地理を浜名湖周辺に置き換えたのか？②“Oxus”はアラル海に注ぐアム・ダリヤ川の古名。これを浦士別川と濤沸湖に翻訳。どちらも大きな川、湖ということか。

20 床丹

playing caught and mythed with the gleam of her shadda, (197)

かのじよ はねひか とこたん
彼女の羽根光りを床丹もてあそびながら (1;367)

● “cat&mouse. River Adda” (McHugh)。“Cat and mouse”「猫とネズミによってくりひろげられるような行動(1)殺す前に獲物をもてあそぶこと(2)追いつ追われつの状況；かわすこと，はぐらかし，など」(リーダーズ)。

床丹「(とこたん，根室・別海町の字，川名)①ト・コタン=沼(のふちにある)・村(松浦『東蝦夷日誌』，更科)②トゥ・コタン=2つの・村(永田・トコタン，ライチコタンの2集落)③ツ・コタン=岬・村(上原)。序潭とも書いた。川は上春別原野から46km流れ，床丹で根室海峡に出る。1869年根室国野付郡，72年平糸村，1972年に別海町大字平糸村から字。昭和30年代に大規模な機械開墾をしたパイロット・ファーム PF の床丹第1(美原)，第2(豊原)地区」(本多，142)。／床丹「(とこたん，網走・佐呂間町の地，川名)①トゥ・コタン=昔・村があった，廃村(永田)②ト・コタン=沼・村(知里・湖畔)。湖岸西端(本多，142)。

■根室に近い床丹の近くでは，クナシリ・メナシの戦い(2:2参照)が勃発しまた弾圧されたことを想起すべきであろう。

21 興部

Malagassy? (207)

おこつべ
くさい興部？(柳瀬 I，386)

● “River Malagasy.” (McHugh)。

興部「(おこつべ，網走・町，字，川名)オウコツ・ペ=(河口付近で)合流する・もの(永田，便覧)。興部川と藻興部川が川口で合流していた。今は藻興部川は海岸を東流しルロチ川と合流」(本多，53)。

■River Malagasyを興部川に置き換えて，malとgasで「悪」と「ガス」=「屁」となる。「屁」が「おこる」場所で「興部」。

22 当別

with ems of embarrass and aues to awe, (207)

当惑とうわくに当別とうべつし畏怖いふに由布ゆふあてつつ、(柳瀬 I, 386)

●“Ems” 「①エムス《ドイツ西部ラインラント＝プファルツ州の町》②エムス川《ドイツの北西部を流れ北海に注ぐ川》」(リーダーズ)。

当別「(とうべつ, 石狩・町, 川名) ①トウ・ベツ＝沼より来る・川(便覧, 永田) ②トヲ・ウン・ベツ＝沼・の有る・川(上原)。石狩川下流右岸, 当別川沿いは沼が多い湿地帯, 南部が当別原野」(本多, 136)。

■エムスは, 普仏戦争開始に至ったエムス電報事件(1870年7月)の場所であり, それが人々を“embarrass”するということか。この意味をふまえて, 音を「当惑」と「当別」で翻訳したのであろう。

23 雨竜

a four penny bit in each pocketside weighed her safe from the blowaway windrush; (208)

両ポケットりょうに入れた四ッ谷よつつの小銭こぜにの重みおもで雨竜うりゅうの突風とつふうにも吹き飛ばふかされな
いという段取りだんど, (柳瀬 I, 397-8)

●雨竜「(うりゅう, 空知・町, 郡, 川名) ①ウリリ・オ・ベツ＝鶉(う)が・多い・川(永田, 便覧) ②オ・リリ・オ・ベツ＝川尻が, 波立つ, 川(知里) ③伝説上の巨鳥フウリユウがいた(町史) ④ウリウ(松浦『郡名建議書』・太古神が名付けられ約書分り申さず)」(本多, 27)。

■“wind”が“rush”するというイメージにふさわしいのが「雨竜」(町)だったということか。

24 幌満, 網走, 庶路

and the rreke of the fluve of the tail of the gawan of her snuffdrab siouler's skirt trailed fffifty odd Irish miles behind her lungarhodes. (208)

かぎ煙草たばこ淀みよどの幌満ほろまんスカートあはしりの網走すそばなの裾花うしのかおりが後ろうしろの庶路じよろにア五十いンド
マイルながはしりも長走はえりに波恵なみていたの。(柳瀬 I, 388)

●幌満「(ほろまん, 日高・様似町の字, 川名) ①ポル・オマン＝洞穴から・流れ出る(上原, 松浦・水源が洞穴) ②ポロ・シュマ・ベツ＝大・石・川(永田) ③ポロ・オマン・ベツ＝大・入・川(櫛丸)。川は広尾岳から30km南下して海に入る急流, 下流10kmに露岩が続く幌満峡谷, 発電用ダムもある」(本

多, 191)。／網走〔(あばしり, 市, 支庁, 郡, 川, 湖, 湾, 国定公園名) ①チパ・シリ=幣場がある・島(知里『網走市史』・漁民たるアイヌが崇拝する「沖の神」の幣場, 松浦『戊午日誌』・網走川口の帽子岩が神を祭る場所) ②チパ・シリ=我ら発見した・土地(永田) ③チパシリ=白石神がチパシリを連呼して舞踏, 鳥がチパシリ, チパシリと鳴いて飛んだ(永田) ④アパ・シリ=漏る・地(上原・窟の入口が滴りで雨漏りのよふなる故) ⑤アパ=入口(知里・樺太方面からの) ⑥カムイ・ワタラ=海中の神岩(更科)。津軽一統志に「はゝ志り村」, 元禄郷帳に「はゞしり」(本多, 8)。／庶路〔(しよろ, 釧路・白糠町の字, 川名) ①ソ・オロ=滝・の処(知里) ②シヨ・リ・オロ=滝・高い・処(永田・大雨で滝のしぶきが飛ぶ) ③シヨロロ・マウエ=順風の勢い(上原・屈曲なく川風涼故, 松浦『東蝦夷日誌』・屈曲し舟が乗り入れ易い) ④シヨ・オロ・ル=滝・に向かっている・道(松本・上流に大滝)〕(本多, 103-4)

■①McHughの注には世界各地の川の名前が記載されているので, 幌満や庶路といった川にちなむ地名を使ったのか。②“lungarhodes”は“along the road”を含意する(McHugh)なので「庶路」。③“gawan”は“gown”につながるが(McHugh), 後者は「(大学のある町で, 住民と区別して)大学の人々, 大学人; 判事, 弁護士」(リーダーズ)という意味もあるから, 本多①「「沖の神」の幣場」の意味を持つ「網走」は適訳かもしれない。また, この「ガウンを着た人々」と「庶路」(庶民)の対比も興味深い。

24:2 網走

manplanting seven sisters while wan warmwood woman scrubbs, (579)

ひとりが恋 郭の網走になっているうちに七姉妹に長男街道を敷き, (柳瀬Ⅲ, 369)

●woo「《文》女をくどく」(リーダーズ)。Wan「《方》one」(リーダーズ)。the Scrubbs スクラブス「《LondonのDu Cane RoadにあるWormwood Scrubbs刑務所の俗称》」(リーダーズ)。Scrubber「①ごしごしこする人②《英俗・豪俗》がらの悪い女, ふしだら女, 浮気女, 売春婦」(リーダーズ)。

■スクラブズの刑務所と網走刑務所の連想であろう。網走にも, かつてはオホーツク地方の中心地として遊郭もあった。

25 新冠

And they crowned her their chariton queen, all the maids. (208)

それで慈愛の女王じあい しよおうっていう浦之名うらのみょうを新冠にいかつぶにかぶせたの、女の子たちみんなで。

(1;388)

●Chariton シャリトン「米国 Iowa 州南部から東と南に流れて Missouri 川と合流する川」(リーダーズ)。

新冠「(にいかつぶ, 日高・郡, 町, 川, 湖名) ①ニ・カプ=木の・皮(永田・1809年ビボクを碑僕を連想し雅音に非ずとニイカップに改称, 角川・密売ビイフクを嫌って) ②ニカプ=楡皮で染めると茶褐色になり普通の厚司と違う(上原, 松浦『東蝦夷日誌』)」(本多, 156)。

■“queen” から「王冠」への連想を「新冠」という地名で表現したのか。新冠川は日高山脈から流れ下る水量豊かな急流。

26 常呂

I want to get it frisk from the soorce. (209)

源みなもとから新鮮しんせんな常呂ところを得たいわ。(柳瀬 I, 389)

●常呂「(ところ, 網走・郡, 町, 字, 川名) ①ト・コロ・ペツ=沼・を持つ・川(永田, 夏雲, 更科) ②トウ・コロ・ペツ=山岬, 岬・を持つ・川(上原, 松浦『戊午日誌』, 山田) ③トー・コロ=沼・あるところ(要覧)」(本多, 141)。

■不明。

26:2 最寄, 常呂

-- In Fingal too they met at Littlepeace aneath the bidetree, Yellowhouse of Snugsborough, Westreeve-Astagob and Slutsend with Stockins of Winning's Folly merryfalls, all of a two, skidoo and skephumble? (503)

——フィンガルでも津雲つぐもんとしたリトルピースりトルピースで出会であったんか、大木だいぎ冨ふの大洞おほほら
轟とどろきの黄島きしまい茶屋ぢややと最寄もよろよろの姥山うばやましい弥生やよいちよう町まちの花輪はなわ台だい模様もようのストックストックキングキングは
いた大串おおくし好きずとがが, 二につたりとも常呂ところかまわみみずみみ曾そ畑ばたてての? (柳瀬 III, 213-4)

●最寄「(もよろ, 網走市, 網走・女満別町の旧大字名) モイ・オル・オ・コタン=湾内・にある・村(更科)。(中略) 最寄貝塚は36年国史跡指定のオホーツク文化の遺跡」(本多, 207)。

■「茶路」(15) を参照(?)。

27 藻興部

through narrowa mosses, the diliskydrear on our drier side [...] (209)

こっちの乾いた藻興部, (1;389)

●藻興部川「(もおこっぺがわ)「川名は「北海道の地名」によると、アイヌ語のモウオコッペに由来し、小さい(方)川尻が互にくつつく川の意で、興部川にくらべると若干小さいという意味という。以前には興部川と合流していたと考えられる」(角川, 1512)。

■「興部」(21)を参照。

28 渚滑

like the Smyly boys at their vicereine's levee. (209)

渚滑者の御勅使にはしゃぐ笑みの家の園児みたいね。(柳瀬Ⅰ, 390)

●Vicereine「副王の」(リーダーズ)。Vice「《史》英国の寓意劇 morality play で道化役として登場する擬人化された「悪徳」「道化」」(リーダーズ)。渚滑「(しよこつ, 紋別市の町名, 網走・滝上町の字, 川, 山名)ソ・コツ=滝・つぼ(永田)」(本多, 104)。

■「悪徳」「道化」から粗忽者すなわち渚滑者という連想で「渚滑」ではないか。

29 美幌

that young fellow looked that stuff, the Bel of Beaus' Walk, a prime card if ever was. (405)

その若者こそはそれ, 美歩路の美童, これぞ切り札に見えたぞよ!(柳瀬Ⅲ, 13)

●美幌「(びほろ, 網走・町, 川, 峠名) ①ベツ・ポロ=水・多く大なる所(便覧, 知里) ②ピ・ポ・オロ=小・石・のある処(松浦『戊午日誌』・ビボロ小石多い) ③ピ・ポロ・ベツ=石の・大・川(更科)清流が合流して水量豊富なので(網走市史)。美幌市街は美幌・網走2川の合流点」(本多, 173)。

■“Bel of Beaus' Walk”をそのまま直訳して「美歩路」(の美童), これに「美幌」の川のイメージを重ねたのか。

30 銭函

and there is a peg under me and there is a tum till me. (413)

ぼくの下には杭意地張ったのがいるし, ぼくまでにぼんやり銭箱があるのだ。

(柳瀬Ⅲ, 28)

●銭函「(ぜにばこ, 小樽市の町名)「銭函, 和人名なり」と松浦武四郎『西蝦夷日誌』(本多, 328)。

■食欲と金銭への欲望をうまく表現する地名として「銭函」を選んだのか。

31 羊蹄山

And did you like the landskip from Lambay? (464)

羊蹄山ようていざんからの眺望ちやうぼうは気に入ったかい? (柳瀬Ⅲ, 133)

●“Landscape. Lambay Island off Co. Dublin.” (McHugh)

羊蹄「(ようてい, 後志・倶知安町の山名, ニセコ町の字名)シリ・ベツ=山・川。日本書紀齋明帝紀にシリヘ・シと振り仮名された後志・羊蹄山に比定, 後志国の命名由来ともなる。尻別川が山麓をぐるっと回って流れ, 蝦夷富士と呼ばれる優美な尻別岳(1107m)のピンネ・シリ(男山)に対し, マツネ・シリ(女山)の名にふさわしい」(本多, 217)。

■LambayのLamで「羊」なのであろう。

31:2 羊蹄

as she was, the playactrix, Lough Shielsing's Love!

--O, add shielsome bridelittle! (526)

なんせいかにも芝居巧女しばいたくめ, 羊亭湖ようていこの恋人こいびとよ!

——ああ, 加えて妖態くわの嫁よめっこだ! (柳瀬Ⅲ, 264)

●lough「《アイル》湖, (細い)入江→loch」(リーダーズ)。Shielsing [shealing]「《(スコット)方》《羊飼い・登山者・漁夫などの》仮小屋, 羊飼い小屋(夏期宿泊用); 《羊の夜間収容用》家畜小屋」(リーダーズ)。

■「羊飼い」から「羊蹄山」を連想したのであろう。また31の「尻別」のイメージも重要。

32 奥尻

I'm dreaming of ye, azores. (468)

ぼくはおまえの夢ゆめを見る, よくよく奥尻おくしりおけ。(柳瀬Ⅲ, 142)

●“the Azores, Atlantic islands. *I*: a stor; my precious. *I*: a chaired: friends (vocative).” (McHugh)

奥尻(おくしり, 檜山・町, 郡, 字, 島名)イ・クス・ウン・シリ=そのの・

向こう側・にある・島（松浦、永田・向島）。（本多，53）

■Azores はポルトガル語で「オオタカ」の複数形に由来する（ランダムハウス）。アフリカ大陸からアゾレス諸島との位置関係と、北海道渡島半島から奥尻島との位置関係は、似ていなくもない。あと、セクシュアルな夢を見るということか（尻）。

33 支笏湖

nor a one of the four cantins (496)

四元湖の一汨もなにもなく（柳瀬Ⅲ，199）

●“Lake of 4 contons=Lake Lucerne”（McHugh）。「ルツェルン湖（スイス中部の湖）」（リーダーズ）。

“シコツ”はアイヌ語が語源です。シ=大きい、コツ=窪地、河谷、という意味になります。／しかし、この“シコツ”が指しているのは、支笏湖の事ではなく、本来は千歳川及びその流域の事だったそうです。／千歳川の事を当初死骨川と呼んだかについては不明ですが川を指していたそうです。／で、“シコツ”=“死骨”に通じるとして文化年間（1805年）に、“シコツ”をもじってお目出度い意味のある“千歳”とし、川を千歳川としたんだそうです。／千歳市は、この川の名前から、そのまま千歳市になったようです。／一方支笏湖の方ですが、これはシコットウというアイヌ語が語源で、これも文化年間にシコットウから支笏湖に改めたんだそうです。ここでいう“トウ”は湖という意味なんだそうです。<http://www.hokkaid.org/guide-v6/text/1-3-2.html>

■「千歳」（18）を参照。支笏湖の支を四として“four”を翻訳したのだろう。兀は「山などの上が高くて平らなさま」（漢字源）だが、ルツェルン湖も支笏湖も山の中にある湖ではある。

34 花咲

And the twillingsons, ganymede, garrymore, turn in trot and trot. (583)

そして双子織の息子ふたりは、花咲蟹愛テ睡夢とずわい蟹愛テ睡夢、トロット、トレットで寝返りを打つ。（柳瀬Ⅲ，376）

●花咲（はなさき、根室市の町、岬、旧郡名）ポロ・ノツ=大・岬（永田・鼻先で岬）。（本多，167）

■花咲ガニで有名な花咲漁港は根室港の裏側にあり、市街地から4キロ強の距離である。Gany-と二回も出てきたから、花咲ガニとズワイガニで「花咲」と

いう連想だろうか。

35 屈斜路湖，サロマ湖

loke, our lake lemanted, that greyt lack, (601)

見^みな^{くつちや}屈斜，われらの物^{ぶつ}湖^こせる別^{わか}レ^{マンと}満都，かの灰^{はい}巨^{きよ}の去^さろ^ま間，(柳瀬Ⅲ，410)

●屈斜路(くっしゃろ，釧路・弟子屈町の字，湖名)クッチャロ=喉口(知里)。

沼の湖が流れ出る口。(本多，72) / 佐呂間(さろま，網走・町，湖名) ①サル・オマ・ペツ=湿原・にある・川(永田・茅ある川) ②サラ・オマ・ペツ=茅・のある所の・川(便覧)。(本多，83)

■これは英語の音と意味をアイヌ語地名で再現したのか。なお，屈斜路湖，サロマ湖も日本有数の面積を誇る湖である。レマン湖も大きい湖。